

# 北九州市児童相談所 第三者評価結果報告書

|    |       |
|----|-------|
| 種別 | 児童相談所 |
|----|-------|

## ①第三者評価機関名

一般社団法人Riccolab.

## ②施設名等

名称：北九州市児童相談所

施設長氏名：安部 聡子

## ③評価日程

利用者調査：2024年9月中旬～10月上旬

自己評価：2024年9月

訪問調査：2024年11月6日（水）

## ④総評

### 【良い点】

○「援助方針会議を週2回、定例開催するとともに、随時、受理会議等を実施して多角的、かつ、重層的な観点から子どもの最善の利益につながる方針決定に努めている」

援助方針会議を週2回定例開催して、各担当課長（児童虐待対策担当、養護相談担当、教育・非行相談担当）が、それぞれの視点で検討を進めている。予め社会診断や心理診断、行動診断、医学診断、さらには関係者の意見等を取りまとめて進行することで、適切に判断できるように取り組んでいる。また、定例開催以外でも随時、受理会議や援助方針会議等を開催しながら、迅速な判断・決定に努めている。

### 【良い点】

○「子どもの意向を丁寧に聞き取り、施設措置後も年に複数回面談の場を設ける等、子どもの状況把握に努め、安心・安全に生活できるよう支援している」

援助方針会議の資料には、「意向確認」の欄に「子どもの意向」が必ず記載されている。一時保護前、保護中、措置前等の節目に、子どもの状況確認と意向等を丁寧に聞いている。措置後も施設には定期的（年に3回程度）に訪問して、子どもとの面談や施設との協議の場を設け、現状把握をしている。里親については委託後、訪問や電話で生活状況を把握しているが、訪問は不定期的であるため、今後は定期的な訪問に努めたいとしており、安心・安全に生活できるよう支援している。

### 【更なる改善点】

●「児童福祉司の配置を進めてきた一方で、学びの機会を用意して着実な能力向上を図っていくことが期待される」

児童虐待対応件数の増加に対応する形で、これまで児童福祉司の配置を積極的に進めており、年々、職員数が増加してきている。一方で、実務について学ぶ機会が十分確保できていないことが課題となっている。外部研修の受講促進は予算の関係で難しい状況が見られるため、例えば、所内で動画を作成して新人職員が視聴して学ぶ機会を用意する等、内部研修の実施方法を工夫し、必要な知識や技術等が習得できるように取り組んでいくことが期待される。

### 【更なる改善点】

●「里親数の増加に向けての広報活動の充実や里親の専門性向上に向けた研修の実施等で、里親支援の仕組み・体制の構築に期待したい」

家庭養護を推進するために、里親数の増加に向けて周知の方法を再考したいとしている。広報活動の取組み強化を図ることや里親の専門性向上のために、研修の質や量の見直しは課題であると認識している。また、フォスターリング業務の委託についても検討したいとしている。里親が日々の子育ての体験を発表する「里親体験発表会」等を企画するなど、里親の相互支援や養育力等の向上と里親制度への理解促進等を図る取組みに期待したい。さらに、里親支援で各種行っている取組みの仕組み・体制の構築に期待したい。

## 実施状況

【判断基準】ごとに、○、△、× のいずれかを選択

## 評価基準

s：他児童相談所が、参考にできるような取組みが行われている状態

a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b：「a」に向けた取組みの余地がある状態

c：「b」以上の取組みとなることを期待する状態

## 第三者評価結果（児童相談所）

### 共通評価基準（65項目）

#### 評価項目（4項目）Ⅰ 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

|                                                                                                                                               | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目1】 子どもへの向き合い方は適切であるか                                                                                                                     | a           |
| [No. 1]子どもの心情や意向に配慮した対応を行っている                                                                                                                 | ○           |
| [No. 2]子どもへの対応において、専門的な技能によるインテークや面接を行っている                                                                                                    | ○           |
| [No. 3]子どもに対する説明は、わかりやすいよう工夫している                                                                                                              | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                        |             |
| 子どもと直接関わる職員が適切に対応できるように、今年度、「こどもの意見聴取等措置についてのチェックリスト」を完成させており、説明する内容や意見聴取の際の留意事項等を明確にしている。このチェックリストを今後、活用しながら、子どもにとってわかりやすい説明等につながることを目指している。 |             |

|                                                                                                                              | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目2】 子どもの権利が守られるための説明や支援等を適切に行っているか                                                                                       | b           |
| [No. 4]子どもの権利について、子どもの年齢や理解に応じて、わかりやすく説明している                                                                                 | ○           |
| [No. 5]児童相談所の職員が子どものアドボカシーを行っている                                                                                             | ○           |
| [No. 6]子どもが児童相談所の職員以外のアドボカシーを利用できるように説明や支援を行っている                                                                             | ○           |
| [No. 7]子どもに対して必要な心理的なケアが行えているか                                                                                               | △           |
| 【コメント】                                                                                                                       |             |
| アドボカイトに関する内容を盛り込む等、これまで使用していた権利ノートを今年度改訂している。なお、心理的ケアについては、現在のところ、被虐待の子どもを中心に実施しているが、今後、被虐待以外の子どもにも対象を広げたいと考えているため、実現が期待される。 |             |

|                                                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目3】 適切な場面において、子どもに対する説明と意見聴取を行っているか                                                                                                                         | b           |
| [No. 8]子どもに対して必要な説明を適切に行っている                                                                                                                                    | △           |
| [No. 9]援助方針決定前に、子どもからの意向や意見を聴いている                                                                                                                               | ○           |
| [No. 10]援助過程において、子どもの意向や意見を聴いている                                                                                                                                | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                                          |             |
| 職員全体へ「こどもの権利スタートアップマニュアル」を周知する等により、適切な説明と意見聴取ができるように努めている。なお、年々、経験の浅い職員の配置が進む中で、スキルアップを目指すために実践的な研修の開催が課題となっているため、今後、動画視聴やロールプレイ等の研修技法を駆使し、学ぶ機会を用意していくことが期待される。 |             |

|                                                                                                           | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目4】 子どもの意見や意向を尊重する対応を行っているか                                                                           | a           |
| [No. 11] 必要な場面において、子どもの理解・同意を得よう努めている                                                                     | ○           |
| [No. 12] 子どもの相談内容や意見等を適切に把握し、援助方針に反映している                                                                  | ○           |
| [No. 13] 子どもの意見を尊重し、支援内容等への反映や見直し等を行っている                                                                  | ○           |
| [No. 14] 子どもの意向と児童相談所の方針が一致しない場合について、児童福祉審議会の意見聴取を行っている                                                   | ○           |
| 【コメント】<br>受理会議や援助方針会議の資料に子どもの意見聴取結果を記載する欄を設け、必ず子どもの意向を検討する形で進めている。所としては、子どもの意向と一致しない方針は立てない姿勢を貫いて取り組んでいる。 |             |

## 評価項目（8項目）Ⅱ 児童相談所の組織

### ○組織体制

|                                                                                                                                               | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目5】 児童相談所の機能を十分に発揮するために必要な組織・体制が確保されているか                                                                                                  | b           |
| [No. 15] 児童相談所の役割を遂行しうる組織運営ができるよう工夫している                                                                                                       | ○           |
| [No. 16] 地域の実情や相談対応件数に応じた必要な職員体制が確保されている                                                                                                      | ○           |
| [No. 17] 必要な専門職を配置している、もしくは必要な専門職との連携体制が確保されている                                                                                               | ○           |
| [No. 18] 夜間・休日の通告・相談や緊急保護に対応する体制が整っている                                                                                                        | △           |
| 【コメント】<br>職員数が約170名と大規模な職員集団の下、地区別と機能別に組織系統を明確に区分し、各職員が自らの役割と責任の下で行動できる体制を整えている。一方、24時間365日の対応が求められる中、夜間休日の緊急電話対応及び勤務に入る職員の負担が大きいことが課題となっている。 |             |

|                                                                                                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目6】 組織的な判断や対応が行える組織運営・体制となっているか                                                                                                            | a           |
| [No. 19] 児童相談所内の相談受付から援助までの手順が明確になっている                                                                                                         | ○           |
| [No. 20] 組織的な判断や対応が行われている                                                                                                                      | ○           |
| [No. 21] 経験の少ない職員については、複数の職員で対応する体制をとっている                                                                                                      | ○           |
| [No. 22] 職員間での情報共有が図られている                                                                                                                      | ○           |
| 【コメント】<br>相談受付から援助までの一連の手順がマニュアル化されて職員全体で共有している。また、各担当課長やSⅤ等を配置し定例会議で組織的な判断を行うとともに、随時、関係する職員を集めて緊急に会議を開催することで、重要案件に係る方針を迅速に検討・決定し、円滑な運営に努めている。 |             |

|                                                                                                                          | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目7】 職場環境としての法令順守や環境改善に取り組んでいるか                                                                                       | a           |
| [No. 23] 適正な就業状況が確保されている                                                                                                 | ○           |
| [No. 24] 職員が働きやすい職場環境づくりの取り組みがなされている                                                                                     | ○           |
| [No. 25] 職員が安心・安全に働ける職場環境が確保されている                                                                                        | ○           |
| 【コメント】<br>職員増に伴い、別の階を借りて執務室を確保する等、十分な業務スペースが確保できるようにしている。また、今年度から上司による個別面談を年4回に増やしたことで、職員の意向等を直接確認しつつ、働きやすい職場作り等へ反映している。 |             |

| ○職員の資質向上・業務改善                                                                                                                                                                  | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目8】 児童相談所の業務の質の向上、効率化のための取り組みを実施しているか                                                                                                                                      | b           |
| [No. 26] 業務改善を行う仕組みがある                                                                                                                                                         | ○           |
| [No. 27] 業務の手順やツール等の見直しを定期的に行っている                                                                                                                                              | ○           |
| [No. 28] 設置自治体による監査等が定期的に行われている                                                                                                                                                | △           |
| 【コメント】<br>月1回の業務改善会議開催や、援助方針会議終了後に業務改善に関する事柄を検討したり、各種会議の議題に課題を取り上げ、改善策を検討・決定しながら運営している。一方、市の事務監査等は行われているが、児童相談所に特化した監査については、実施していない。今後、自己評価の実施等も含め、所の運営状況をチェックする取り組みの導入が期待される。 |             |

|                                                                                                                                                                                                                             | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目9】 児童福祉司等の職員に必要な専門性が確保されるための取り組みを行っているか                                                                                                                                                                                | b           |
| [No. 29] 児童福祉司等の職員に必要な研修等を受講させている                                                                                                                                                                                           | ○           |
| [No. 30] ケースワークを通じた職員育成に取り組んでいる                                                                                                                                                                                             | ○           |
| [No. 31] 職員の専門性（能力・スキル）を確認する仕組みがある                                                                                                                                                                                          | △           |
| [No. 32] 児童福祉司等の専門性を確保するための採用・異動の取り組みを行っている                                                                                                                                                                                 | △           |
| 【コメント】<br>外部研修の受講を望む職員の意見が複数寄せられているが、限られた予算内で全職員の希望に沿い、計画的に外部研修へ派遣することが難しい状況となっている。また、異動も含め、児童福祉司の基本資格が多岐にわたっており研修の機会充実を課題と認識している。今後、基本的なスキルはもとより、業務上必要とされる里親及び社会的養護関係施設、関連する地域ネットワーク等について、職員が十分認識できるよう内部研修等を実施していくことが望まれる。 |             |

| ○情報管理に関する事項                                                                                                               | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目10】 情報の取り扱いが適切に行われているか                                                                                               | a           |
| [No. 33] 情報の秘匿性に十分に配慮した慎重な対応を行っている                                                                                        | ○           |
| [No. 34] 個人情報の保護・管理が適切に行われている                                                                                             | ○           |
| 【コメント】<br>個人情報の取り扱い方法をはじめ、外部への情報漏えいが生じないように実務を振り返る機会を用意している。また、情報漏えいにつながるおそれがある事例が浮上した場合に、全体研修を企画・実施して注意喚起を図る等の取組みを行っている。 |             |

|                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目11】 児童記録票等、必要な記録が適切に作成・管理されているか                                                                            | a           |
| [No. 35] 児童記録票の作成形態や管理方法は適切である                                                                                  | ○           |
| [No. 36] 児童記録票に記載すべき情報が全て記載されている                                                                                | ○           |
| [No. 37] 児童記録票について、所内での決裁を得ている                                                                                  | ○           |
| [No. 38] 児童記録票は必要な期間保管されている                                                                                     | ○           |
| 【コメント】<br>児童記録票の作成手順や管理方法を明確に定め、鍵付きの書庫で厳重に保管する等、一連の仕組みを整えている。すべての児童記録票について、所長が最終決裁しつつ、適切な記録の作成・管理となるように取り組んでいる。 |             |

| ○児童虐待や児童相談所の業務に関する広報活動について                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目12】 児童虐待や児童相談所の業務に関する地域の知識や理解を高めるための広報活動を計画的に実施しているか                                                                                  | a           |
| [No. 39] 児童虐待や児童相談所に対する地域の理解促進のための取り組みを行っている                                                                                               | ○           |
| 【コメント】<br>市民向けの広報活動は、児童虐待防止推進月間のイベントに合わせた講演はもとより、依頼に応じ、月1回程度の頻度で出前講座等を行っている。また、小中高校生全員を対象に、毎年、24時間子ども相談ホットラインのカードを配布し、子ども一人ひとりの理解促進を図っている。 |             |

## 評価項目（20項目）Ⅲ 子どもの生命を守るための、虐待相談対応と進行管理

### ○通告・相談対応

|                                                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目13】 相談・通告の受付体制が確保されているか                                                                                                                                    | a           |
| [No. 40]適切な相談受付の体制が確保されている                                                                                                                                      | ○           |
| [No. 41]障がい者（児）や日本語が十分でない相談者からの相談受付を行うために必要な措置がとられている                                                                                                           | ○           |
| 【コメント】<br>相談の受付、方法、対応それぞれの業務手順を明確にしており、所外でも、例えば学校や地域の市民センターで対応する等、相談者の状況に合わせて進めている。なお、外国語や手話対応が必要な相談は年間を通して少ない状況となっており、随時、対応可能な職員が担当したり、国際交流協会の協力を得る等により、進めている。 |             |

|                                                                                                                            | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目14】 相談・通告のあったケースに関し、必要な情報収集を迅速かつ的確に行っているか                                                                             | a           |
| [No. 42]相談者や通告者から必要な情報収集を行っている                                                                                             | ○           |
| [No. 43]相談者や通告者の状況に配慮し、受容的かつ子どもの安全を優先した対応を行っている                                                                            | ○           |
| [No. 44]子どもの所属機関や関係機関等からの情報収集を行っている                                                                                        | ○           |
| 【コメント】<br>相談受付票と受付時の補足情報票について、所定の様式に基づき記録することで、漏れなく情報収集できるように整えている。また、例えば、放課後児童クラブ等、子どもと関連する機関等からも適宜、情報を収集しながら状況の把握に努めている。 |             |

### ○受理

|                                                                                                                                   | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目15】 受理会議が適切に開催され、組織的な検討・判断を行っているか                                                                                            | a           |
| [No. 45]受理会議（緊急受理会議）は適切に行われている                                                                                                    | ○           |
| [No. 46]検討すべき全てのケースについて、受理会議で検討・判断されている                                                                                           | ○           |
| [No. 47]受理会議において確認・検討・決定すべき事項が確実に協議されている                                                                                          | ○           |
| [No. 48]緊急受理会議において、安全確認の必要性や方法について適切に判断されている                                                                                      | ○           |
| [No. 49]受理会議の内容について適切に記録が保存されている                                                                                                  | ○           |
| 【コメント】<br>虐待通告については、すべて受理会議を開催している他、週2回の援助方針会議では所長を含めた管理職7名の出席を原則に進めるとともに、随時、緊急受理会議や援助方針会議を実施している。また、48時間以内の目視による安全確認を徹底し、運営している。 |             |

|                                                                                                                                      | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目16】 受理したケースに応じ、必要な確認・手続き等を行っているか                                                                                                | b           |
| [No. 50] 受理したケースについて、必要な確認や手続き等を行っている                                                                                                | △           |
| 【コメント】<br>休日夜間については、SVとCWの2名の当番制で対応している他、ITシステム導入により管理職と迅速に情報共有できる環境を整えている。ただし、休日夜間の体制のさらなる充実が必要と認識しているため、引き続き、具体策の検討を進めていくことが期待される。 |             |

| ○子どもの安全確認・安全確保                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目17】 子どもの生命を最優先した、安全確認・安全確保が行われているか                                                                                        | a           |
| [No. 51] 通告受理後、速やかに安全確認が行われている                                                                                                 | ○           |
| [No. 52] 目視による安全確認が実施されている                                                                                                     | ○           |
| [No. 53] 家庭訪問等での安全確認ができない場合に必要な措置がとられている                                                                                       | ○           |
| [No. 54] 安全確認が適切な体制で実施されている                                                                                                    | ○           |
| [No. 55] 安全確認等を市区町村や他機関に依頼する場合に、適切な対応を行っている                                                                                    | ○           |
| [No. 56] 拒否的な保護者に対して、法に基づき適切に対応を行っている                                                                                          | ○           |
| 【コメント】<br>通告を受理した後、48時間以内の目視による安全確認の100%達成を目指して取り組む中、現状は95%程度で、その後に確認はとれている。現役の警察官が配置されていることが所の特徴の一つであり、速やかに警察との連携を取りながら進めている。 |             |

|                                                                                      | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目18】 一時保護の要否について適切な判断及び迅速な対応が行えているか                                              | a           |
| [No. 57] 一時保護の要否について、適切な判断及び迅速な対応が行われている                                             | ○           |
| 【コメント】<br>リスクアセスメントシートを参考に、子どもの意向を尊重しながら一時保護の判断をしている。なお、一時保護所の体制を理由に、一時保護を行わないことはない。 |             |

|                                                                                       | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目19】 安全確認・安全確保に関する調査の記録等が適切に作成・保管されているか                                           | a           |
| [No. 58] 安全確認・安全確保に関する調査の記録等が適切に作成・保管されている                                            | ○           |
| 【コメント】<br>ケース記録の記載方法について、ケースワーカー間で相違がある状況を課題と認識している一方、安全確認の方法や結果はケース記録から読み取れる形で進めている。 |             |

| ○調査・アセスメント                                                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目20】 アセスメントに必要な調査が行えているか                                                                              | a           |
| [No. 59] 調査により必要な情報が適切に把握できている                                                                            | ○           |
| [No. 60] 適切な調査が行える体制・方法をとっている                                                                             | ○           |
| 【コメント】<br>所定の様式に基づき、関係機関からネグレクトの兆候や心理面・発達面の状況等を収集している。また、現地調査を行う場合には、原則複数名で対応することで、適切に情報を把握できるように取り組んでいる。 |             |

|                                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目21】 アセスメントが適切に行われているか                                                                                                                      | b           |
| [No. 61] 多角的・重層的な診断を行っている                                                                                                                       | ○           |
| [No. 62] 把握された情報がアセスメントに十分に反映されている                                                                                                              | ○           |
| [No. 63] きょうだいを含め、家族全体のアセスメントが行えている                                                                                                             | ○           |
| [No. 64] アセスメントシートが市区町村等の関係機関と共有されている                                                                                                           | △           |
| [No. 65] アセスメントの結果が児童記録票に記載されている                                                                                                                | ○           |
| 【コメント】<br>アセスメントは、社会診断、心理診断、行動診断、医学診断、さらに関係機関の意見を踏まえて所内で議論をしている。なお、関係機関との情報共有は主に電話連絡を通して実施しており、アセスメントシートを共有するまでには至っていないため、今後、標準化を進めていくことが期待される。 |             |

|                                                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目22】 特にリスクの高いケースについて、必要十分な調査及びアセスメントが行われているか                                               | a           |
| [No. 66] 特定妊婦に対するアセスメントが適切に行われている                                                              | ○           |
| [No. 67] 転居ケースに対するアセスメントが適切に行われている                                                             | ○           |
| [No. 68] 転居先が不明な子どもについて適切な調査等が行われている                                                           | ○           |
| [No. 69] 居所不明な子どもについて適切な調査等が行われている                                                             | ○           |
| 【コメント】<br>特定妊婦や転居ケース、転居先不明、居所不明等、特にリスクの高いケースについての具体的な対応方法は、区役所が所管となるものも含め、すべて標準化されている中で運営している。 |             |

| ○援助方針の策定                                                                                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目23】 援助方針会議が、適切な頻度・タイミング、体制で開催されているか                                                                                                | a           |
| [No. 70] 援助方針会議が適切な頻度で開催されている                                                                                                           | ○           |
| [No. 71] 総合診断を踏まえ、多角的・重層的な検討を行うための体制が確保されている                                                                                            | ○           |
| [No. 72] 援助方針会議で検討すべき全ての事例の検討が行われている                                                                                                    | ○           |
| [No. 73] 援助方針会議の記録が適切に作成・保存されている                                                                                                        | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                  |             |
| 従来から定例の援助方針会議を週2回開催し、高頻度で取り組んでいる。SVやCW、管理職、心理職、一時保護所職員等が出席する中、検討を進めている。事前の資料作成を重視し取り組み、会議の冒頭について、CWによる説明から資料黙読へ変更したことが、スムーズな進行につながっている。 |             |

|                                                                                                           | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目24】 援助方針の決定に関する判断が適切に行われているか                                                                         | a           |
| [No. 74] 子どもの自立と自己実現を援助する、子どもの最善の利益を優先するための援助方針が選択されている                                                   | ○           |
| [No. 75] 援助方針の決定に当たり、保護者等の相談内容や意見等を把握し、援助方針に反映している                                                        | ○           |
| [No. 76] 一時保護所や一時保護委託先、市区町村等の関係機関の意見を聴き、援助方針に反映している                                                       | ○           |
| [No. 77] 市区町村への委託または送致を行うケースに関する判断が適切に行われている                                                              | ○           |
| [No. 78] 子どもや保護者等の状況に応じ、必要と判断される場合には福祉事務所や家庭裁判所への送致等を行っている                                                | ○           |
| [No. 79] 児童福祉審議会の意見を尊重して援助方針が決定されている                                                                      | ○           |
| [No. 80] 子どもの最善の利益を確保するために、必要に応じ家庭裁判所に対する家事審判の申し立てを行っている                                                  | ○           |
| 【コメント】                                                                                                    |             |
| 子どもの最善の利益を大前提に子ども本人や保護者、関係機関等の意見を十分把握したうえで援助方針を決定する姿勢を貫いている。なお、相談対応件数が増加傾向にある中で、例えば、区役所と役割分担できる領域を模索している。 |             |

|                                                                                              | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目25】 援助方針の内容は適切か                                                                         | a           |
| [No. 81] 援助方針として定めるべき事項が記載されている                                                              | ○           |
| [No. 82] 援助方針として必要な視点が盛り込まれている                                                               | ○           |
| [No. 83] 援助方針が児童相談所や関係機関の役割や援助能力等を踏まえた現実的なものとなっている                                           | ○           |
| [No. 84] 援助方針の策定・決定が適切に行われている                                                                | ○           |
| 【コメント】                                                                                       |             |
| 各種診断をはじめ、援助方針会議に諮る内容や資料作成について標準化が図られており、必要な視点が書面で明確になるようにしている。主担当者が上司等に確認しながら作成する仕組みが定着している。 |             |

|                                                                                          | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目26】 市区町村がかかわるケースについて、援助方針に関する市区町村への説明や意見反映等を行っているか                                  | a           |
| [No. 85] 市区町村への委託や送致に当たっては、市区町村との協議を十分に行っている                                             | ○           |
| [No. 86] 援助方針について、市区町村への説明を行っている                                                         | ○           |
| [No. 87] 援助方針について、市区町村からの意見等を確認し、援助方針に反映している                                             | ○           |
| [No. 88] 市区町村への委託や送致を行う前に、市区町村の合意を得ている                                                   | ○           |
| [No. 89] 市区町村への委託や送致に伴い、要対協の要保護・要支援児童として登録されていることを確認している。                                | ○           |
| 【コメント】<br>所として市内7区を2つに分け、それぞれ適切に対応できる体制を整備し運営している。月1回、各区とケース会議を開催しながら、適宜、説明や意見反映等を進めている。 |             |

| ○在宅指導                                                                                                                                          | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目27】 在宅指導中の子どもに対する支援は適切に行われているか                                                                                                            | b           |
| [No. 90] 在宅指導の計画は、支援内容や支援体制が明確で適切な内容となっている                                                                                                     | △           |
| [No. 91] 子どもに対して必要な支援を計画的に実施している                                                                                                               | △           |
| [No. 92] 複数の関係機関が関与するケースについて、効果的な連携を行うための調整等を行っている                                                                                             | ○           |
| 【コメント】<br>在宅指導は、定期的な家庭訪問や通所指導、所属による見守りの他、虐待ケースの家庭復帰の場合は児童福祉司指導を適切に行っている。なお、在宅指導の計画はそれぞれのCW、SVの裁量によるところが大きい<br>ため、今後、所として判断する流れを構築していくことが期待される。 |             |

| ○進行管理・援助方針等の見直し                                                                                               | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目28】 指導や措置を行っているケースについての進行管理が適切に行われているか                                                                   | b           |
| [No. 93] 組織的な進行管理により、ケースの状況変化の把握・判定を行っている                                                                     | △           |
| [No. 94] 養育環境の変化等、リスクが増大する可能性がある場合には、再アセスメントを行っている                                                            | △           |
| 【コメント】<br>所定の進行管理表に基づき、ケース毎に対応経過等を記録する仕組みとなっている。SVの責任下で状況変化を把握している一方、養育環境の変化等があった全てのケースで再アセスメントを行うまでには至っていない。 |             |

|                                                                     | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目29】 指導や措置を行っているケースについて、市区町村に対する情報共有を適切に行っているか                  | a           |
| [No. 95] 一時保護後の状況について、必要に応じて市区町村への情報共有を行っている                        | ○           |
| 【コメント】<br>一時保護中の状況及び保護解除後の状況について、区が関わるケースについては適宜、必要な情報を提供しながら進めている。 |             |

| ○管轄する児童相談所の変更                                                                               | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目30】 児童相談所の変更に関し、十分な検討が行われているか                                                          | a           |
| [No. 96] 居所と住所が異なる場合について、管轄する児童相談所は子どもの福祉を最優先して決定されている                                      | ○           |
| [No. 97] 「移管」及び「情報提供」の判断が適切に行われている                                                          | ○           |
| 【コメント】<br>居住実態のある子どもへの対応を基本に取り組んでいる。なお、転居ケースについては「全国児童相談所長会における申し合わせ」に基づき、ケース移管・情報提供を行っている。 |             |

|                                                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目31】 「情報提供」または「ケース移管」を行う児童相談所における手続きが適切に行われているか                                            | a           |
| [No. 98] 援助方針について、情報提供先または移管先の児童相談所と事前協議を行っている                                                 | ○           |
| [No. 99] 移管までの援助が適切に行われている                                                                     | ○           |
| [No. 100] 児童相談所が適切な支援を行えるよう、必要な情報を提供している                                                       | ○           |
| [No. 101] 移管先の児童相談所への連絡・引継ぎが適切に行われている                                                          | ○           |
| 【コメント】<br>ケース移管を行うに当たり、移管先の児童相談所との事前協議や移管までの援助、移管後の支援に必要な情報提供等を、「全国児童相談所長会における申し合わせ」に基づき進めている。 |             |

|                                                                                                                                            | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目32】 「情報提供」または「ケース移管」を受ける児童相談所における手続きが適切に行われているか                                                                                       | b           |
| [No. 102] 情報提供を受ける児童相談所において、必要な支援等が行えるよう協議している                                                                                             | ○           |
| [No. 103] 移管元の援助方針を継続し、速やかに対応している                                                                                                          | ○           |
| [No. 104] 移管手続き完了後1か月が経過した時点で、アセスメント及び援助方針の見直しを行っている                                                                                       | △           |
| [No. 105] 移管元の児童相談所からの連絡・引継ぎは適切に行われている                                                                                                     | ○           |
| 【コメント】<br>ケース移管を受ける前に、移管元の児童相談所から援助方針等の情報を入手して受理会議を行い、アセスメントや援助方針の見直しを行っている。なお、移管手続き完了後1か月で再アセスメントや援助方針の見直しをする等、定期性を担保した一連の仕組みまでは用意されていない。 |             |

## 評価項目（14項目）Ⅳ 社会的養護で生活する子どもへの支援

### ○援助方針の策定に関する調整

|                                                                                                                                                                                                           | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目33】 社会的養護を必要とする子どもの援助方針の決定に関する判断・調整は適切に行われているか                                                                                                                                                       | a           |
| [No. 106] 家庭での養育が困難または適切でない子どもの保護に関する支援方針は適切である                                                                                                                                                           | ○           |
| [No. 107] 措置先の選定は適切に行われている                                                                                                                                                                                | ○           |
| [No. 108] 措置先の施設所在地や里親の居住地の市区町村及び関係機関との連携が図られている                                                                                                                                                          | ○           |
| 【コメント】<br>家庭での養育が困難なケースは、子ども、保護者の意向や関係機関の意見を確認の上、援助方針会議で支援方針を検討し決定している。措置先は子どもの意向や特徴及び校区等を考慮して選定しているが、措置先の状況によって即座に決まらないこともある。里親数を増やすことにより、措置先を十分に確保したい意向である。措置に当たり、子どもが所属する保育園や学校等の関係機関とも情報を共有し連携を図っている。 |             |

|                                                                                                                                                                                                        | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目34】 里親委託・入所措置等による援助を開始するに当たり、援助者と十分な協議を行っているか                                                                                                                                                     | b           |
| [No. 109] 里親や施設等、他機関との連携による支援を行うケースについては、援助指針について他機関との協議・連携を行っている                                                                                                                                      | ○           |
| [No. 110] 里親や施設等に対し、支援に必要な情報等を適切に提供している                                                                                                                                                                | ○           |
| [No. 111] 里親や施設等との連携による支援を行うケースについては、自立支援計画の策定に当たり里親や施設等との協議・連携を行っている                                                                                                                                  | △           |
| 【コメント】<br>里親や施設等に措置する際は、措置先に子どもを取り巻く状況や社会・心理・行動等の各種診断の説明をして、必要な情報を伝えている。また、追加調査等の情報を得た場合は、適宜、措置先に訪問や電話にて伝えている。入所時の自立支援計画は、子どもや保護者等の意見を聞き、里親や施設等の状況を踏まえて策定しているが、時期がずれることと障害児入所施設で策定していない事例があり、改善に期待したい。 |             |

|                                                                                                                                                                                                  | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目35】 措置開始や措置変更等による援助内容の変更の際には、子どもの負担が少なくなるよう配慮した対応を行っているか                                                                                                                                    | a           |
| [No. 112] 里親との交流や入所先施設見学などの機会を設けている                                                                                                                                                              | ○           |
| [No. 113] 医療機関の医師等、援助にかかわる支援者との顔合わせ等の機会を設けている                                                                                                                                                    | ○           |
| 【コメント】<br>措置開始までに、子どもが不安を持つことなく措置先に行けるように、子どもの意向を確認の上、里親宅や施設の見学をしている。また、里親等の面会、外出、外泊等を段階的に進め、その都度子どもの気持ちを確認しながら、新たな環境に慣れるよう支援している。また、委託・措置後も子どもと適宜面談を行い、子どもと支援者との関係が良好になるようフォローし、子どもの負担を少なくしている。 |             |

| ○社会的養護時における援助                                                                                                                                              | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目36】 里親や施設等が行う援助内容等に関して必要な確認・助言・支援等を行っているか（指導委託・あっせん・里親委託・入所措置等）                                                                                       | a           |
| [No. 114] 子どもや支援の状況を定期的に把握している                                                                                                                             | ○           |
| [No. 115] 把握した子どもや支援の状況に基づき、必要な指示・援助・対応の検討等を行っている                                                                                                          | ○           |
| [No. 116] 支援開始後にも措置先や委託先（里親支援機関等）からの意見等を尊重している                                                                                                             | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                                     |             |
| 施設には定期的（年に3回程度）に訪問して、子どもと面談や施設と協議の場を設け、現状把握をしている。里親や施設等からの相談等があった時は、適宜必要な助言等をし、ケース記録に記載し児童相談所内で共有している。里親委託後は訪問や電話で生活状況を把握しているが、訪問は不定期的なため定期的な訪問に努めたいとしている。 |             |

|                                                                                                                                                                     | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目37】 援助方針の見直しが適切に行われているか                                                                                                                                        | b           |
| [No. 117] 定期的に援助方針の見直しを行っている                                                                                                                                        | △           |
| [No. 118] 再アセスメントの結果を踏まえ、援助方針の見直しを行っている                                                                                                                             | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                                              |             |
| 里親や施設等での養育が長期化している子どもについては、長期入所の担当係が年に複数回の面談を行い意向を確認している。援助方針の再検討が必要な場合は、再度アセスメントを行い援助方針会議で検討している。状況が安定し支援が進んでいるケースについても定期的に再検討を図るよう、また、検討に当たっては、視点を明確にしていきたいとしている。 |             |

|                                                                                                                                                         | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目38】 自立支援計画の見直しが適切に行われるよう、施設等との連携を密に行っているか                                                                                                          | b           |
| [No. 119] 自立支援計画の策定に当たり、施設等に対し、必要な指導・助言等を行っている                                                                                                          | △           |
| [No. 120] 自立支援計画について定期的なモニタリングを行い、必要な見直しが行われている                                                                                                         | △           |
| 【コメント】                                                                                                                                                  |             |
| 自立支援計画については施設等と共有しているが、指導・助言までには至っておらず、定期的な見直しを図るようにしたいとしている。施設との合同協議の機会を捉え、施設等の知識や意識をさらに高めたいとしている。施設入所中の子どもについては、子どもの意向と家庭状況を踏まえて、家庭養育への移行の可能性を検討している。 |             |

|                                                                                        | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目39】 面会・通信制限や接近禁止命令は、適切な判断・手続きのもとで行われているか                                          | a           |
| [No. 121] 面会・通信制限が必要なケースについて、適切に制限をかけている                                               | ○           |
| [No. 122] 面会・通信制限が必要最低限のものとなっている                                                       | ○           |
| [No. 123] 面会・通信制限を解除するに当たって、適切な判断・手続きを行っているか                                           | ○           |
| [No. 124] 接近禁止命令の発出に当たっては、関係する機関等との連携体制を構築している                                         | ○           |
| 【コメント】                                                                                 |             |
| 面会・通信制限が必要なケースは少ないが、制限をする場合は子どもの安心、安全を守るために適切に対応している。面会・通信制限を解除する場合は、子どもの意見を聴いて対応している。 |             |

|                                                                                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目40】 里親や施設等において、児童相談所の介入・調整等が必要な事案が発生した場合に、適切に対応しているか                                                                                                                                       | a           |
| [No. 125] 入所施設等に対する子どもからの苦情や不満等が聞かれた場合に必要な対応を行っている                                                                                                                                              | ○           |
| [No. 126] 里親や施設等と、親権者等との調整が必要な場合に適切な対応を行っている                                                                                                                                                    | ○           |
| [No. 127] 里親や施設等による懲戒にかかわる権限の濫用や虐待等が疑われる場合に、必要な対応を行っている                                                                                                                                         | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                                                                          |             |
| 子どもからの苦情等があった場合は、担当CW等が他の子どもや里親・施設等に聞き取りを行い事実確認をして、子どもの福祉を優先した対応を検討している。里親や施設等で問題が発生した場合は、本庁関係課に連絡を入れ調整をしている。必要に応じて子どもと里親等へのフォローをしている。また、状況に応じて一時保護等の対応をしている。さらに、アドボケイト制度の利用促進に向けて働きかけていくとしている。 |             |

| ○一時帰宅、措置の解除、停止、変更及び在所期間の延長                                                                                                                             | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目41】 一時帰宅における対応が適切に行われているか                                                                                                                         | a           |
| [No. 128] 一時帰宅について、慎重なアセスメント及び判断を行っている                                                                                                                 | ○           |
| [No. 129] 他自治体への一時帰宅を行う場合には、双方の児童相談所で必要な協議・情報共有を行っている                                                                                                  | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                                 |             |
| 一時帰宅の可否は、子どもや保護者の意向と家庭環境を確認し、援助方針会議等で判断している。一時帰宅後は、子どもから生活状況を聞き、里親や施設等の意見を聴取し、保護者の養育姿勢、環境を確認して段階的に対応している。他自治体への一時帰宅を行う時は、必要に応じて双方の児童相談所で協議・情報共有を行っている。 |             |

|                                                                                                                                      | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目42】 措置や指導等の終結の判断が、慎重かつ適切に行われているか                                                                                                | a           |
| [No. 130] 施設入所中から、要対協や関係機関等との情報共有を行っている                                                                                              | ○           |
| [No. 131] 措置や指導等の終結について、子どもや里親、施設等からの意見を十分に聴いている                                                                                     | ○           |
| [No. 132] 措置の解除等については援助方針会議等において組織的かつ総合的な視点から判断している                                                                                  | ○           |
| [No. 133] 措置や指導等を終結する際には、その理由を明確にしている                                                                                                | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                               |             |
| 措置や指導等の終結の際は、子どもや保護者及び里親や施設等からの意見を十分に聴き、家庭訪問等で家庭環境を確認し、援助方針会議において総合的な視点から判断し決定している。一時保護や施設等に入所中の子どもの状況等については、要対協や関係機関に対し報告し情報共有している。 |             |

|                                                                                                   | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目43】 措置の解除後の援助について、十分に協議・調整をしているか                                                             | a           |
| [No. 134] 措置解除に向けて、必要となる支援等について適切に判断している                                                          | ○           |
| [No. 135] 措置解除後にも必要な支援が受けられるよう、関係機関等との調整を十分に図っている                                                 | ○           |
| 【コメント】                                                                                            |             |
| 措置解除の際は、援助方針会議にて支援先の確保や関係機関の見守り支援の確認をしている。措置解除後の支援については、里親や施設等の意見を聴いて、子どもに負担のない段階的な移行となるよう配慮している。 |             |

|                                                                                              | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目44】 入所措置や一時保護の解除時及び解除後の子ども等に対する支援は適切に行われているか                                            | a           |
| [No. 136] 虐待の再発防止等、子どもの安全確保に関する対応が十分に行われている                                                  | ○           |
| [No. 137] 子どもの生活や精神面の安定を図るために必要な支援等を行っている                                                    | ○           |
| [No. 138] 子どもの状況に応じ、在所期間の延長等を行うなど、必要な支援が受けられるようにしている                                         | ○           |
| 【コメント】<br>家庭訪問等で家庭環境を確認し、入所措置や一時保護の解除が適切であるか確認をしている。虐待の再発リスクが高い場合は、援助方針会議で検討して在所期間の延長等をしている。 |             |

| ○児童自立生活援助等                                                                                                                                                                                    | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目45】 子どもの状況に応じ、児童自立生活援助につなげ、必要な支援等を行っているか                                                                                                                                                 | a           |
| [No. 139] 児童自立生活援助の対象の子どものうち、継続した支援等が必要な子どもを適切に支援につなげている                                                                                                                                      | ○           |
| [No. 140] 児童自立生活援助を実施している子どもについて、必要な支援を継続して行っている                                                                                                                                              | ○           |
| [No. 141] 児童自立生活援助の実施を解除するに当たっては、児童の自立に向けて必要な情報提供等の支援を行っている                                                                                                                                   | ○           |
| 【コメント】<br>児童自立生活援助事業の対象となる子どもには、面接で子どもの意向を確認すると共に、児童自立生活援助事業の制度説明もしている。子どもの状況は、担当CWが面接や電話連絡等で把握し支援している。解除の際は、子どもの自立に向けて必要な情報提供等を行い、新たな支援先の紹介もしている。なお、制度改正となった児童自立生活援助事業への理解を深める取組みが必要と認識している。 |             |

|                                                                                                                       | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目46】 18歳以上の未成年に対しても、必要な支援等を行っているか                                                                                 | a           |
| [No. 142] 18歳以上の未成年に対し、必要な支援等を行っている                                                                                   | ○           |
| 【コメント】<br>児童自立生活援助事業の対象となる子どもは、必要性を援助方針会議で検討し決定している。子どもの状況を確認し必要に応じて措置延長にも対応している。なお、この設問については、「18歳以上の成年」と置き替えて評価している。 |             |

## 評価項目（5項目）Ⅴ 社会的養育の推進

### ○里親相談への対応・家庭養護の推進

|                                                                                                                                                                                                                                       | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目47】 家庭養護を推進するためのフォostタリング業務の実施体制の構築に取り組んでいるか                                                                                                                                                                                     | b           |
| [No. 143] 家庭養護を推進するための仕組み・体制の構築に取り組んでいる                                                                                                                                                                                               | △           |
| [No. 144] 里親制度に対する理解促進、登録里親数増のための取り組みを行っている                                                                                                                                                                                           | △           |
| [No. 145] 里親の専門性の向上に向けた取り組みを行っている                                                                                                                                                                                                     | △           |
| [No. 146] 里親の登録・認定の判断、名簿管理を適切に行っている                                                                                                                                                                                                   | △           |
| 【コメント】                                                                                                                                                                                                                                |             |
| 家庭養護を推進するために、フォostタリング機関の設置に向けて取り組んでいる状況である。里親委託等推進員を2名配置し、里親担当職員と共に里親制度の理解・推進に努めている。各施設の里親支援専門相談員と毎月、連携協議会を開催し里親の支援をしている。里親数の増加に向けて周知の方法を再考することや里親の専門性向上のために、研修の質や量の見直しが課題であると認識している。また、里親支援として行っている各種の取り組みを、仕組み・体制として構築していきたいとしている。 |             |

|                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目48】 里親希望者に対する調査・認定等を適切に行っているか                                                                                              | b           |
| [No. 147] 里親を希望する者からの相談を受けた場合には、受理会議で検討し、必要な調査・認定等を行っている                                                                        | △           |
| 【コメント】                                                                                                                          |             |
| 里親希望者への対応は、里親担当職員が制度等について説明をしている。家庭訪問にて住居環境を、面接や提出書類にて生活状況を確認している。里親希望の相談については、現在、受理会議をしていないため、ケースの把握等の組織的な周知のためにも受理会議の実施を求めたい。 |             |

|                                                                                                                               | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目49】 養子縁組を行うに当たり、必要な判断・手続き等が適切に行われているか                                                                                    | a           |
| [No. 148] 養子縁組の適切性について十分に判断している                                                                                               | ○           |
| [No. 149] 養子縁組を行うことについて子どもや実親等の同意を得ている                                                                                        | ○           |
| [No. 150] 養子縁組希望者に対し、必要な説明を十分に行っている                                                                                           | ○           |
| [No. 151] 養子縁組の成立に向けて必要となる手続き等の支援を行っている                                                                                       | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                        |             |
| 養子縁組希望者の相談は、里親担当職員が中心となり制度や手続等について説明をしている。養子縁組成立に向けて、家庭訪問や裁判所への書類提出等の必要な手続きを支援している。養子縁組に当たっては、実親の養育環境等を調査し、十分に説明して同意を得て進めている。 |             |

|                                                                                                                                     | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目50】 養子縁組成立後も必要な支援等を行っているか                                                                                                      | a           |
| [No. 152] 養子縁組成立後も、必要な支援等を行っている                                                                                                     | ○           |
| 【コメント】<br>養子縁組成立後半年間は、継続指導として訪問等で様子を確認し助言等で支援している。なお、半年経過後も子どもの養育等での相談があれば適宜対応している。養子縁組成立後に児童相談所の関わりを望まないケースもあり、支援のあり方について検討が必要である。 |             |

|                                                                                                                                             | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目51】 民間あっせん機関による養子縁組に対して必要な支援を行っているか                                                                                                    | b           |
| [No. 153] 民間あっせん機関による養子縁組が適切に行われるよう、日頃から必要な連携等を行っている                                                                                        | △           |
| [No. 154] 民間あっせん機関が養子縁組を行うに当たり、必要な支援等を行っている                                                                                                 | ○           |
| [No. 155] 民間あっせん機関が養子縁組をした子どもに対し、必要に応じて支援を行っている                                                                                             | ○           |
| [No. 156] 民間あっせん機関が事業を廃止しようとした場合に必要な対応を行っている                                                                                                | △           |
| 【コメント】<br>民間あっせん機関による養子縁組については、養育者が同居児童の届け出を当所に提出している。当所では、訪問調査をし養育状況を確認するなど、保護者からの相談に応じて支援をしている。民間あっせん機関が市内にはないことから、日頃からの連携が図りにくい状況となっている。 |             |

| 評価項目（5項目） VI 家族とのかかわり・家族への支援                                                                                                         | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目52】 保護者への向き合い方は適切であるか                                                                                                           | b           |
| [No. 157] 保護者への対応において、専門的な技能によるインテークや面接を行っている                                                                                        | △           |
| 【コメント】<br>保護者への対応は、相談室等のプライバシーの守られた空間において説明している。保護者の話を傾聴、共感をベースに気づきができるように面接をしている。なお、面接で配慮すべきポイントがおさえられるよう、CWのスキルアップのための研修の実施に期待したい。 |             |

| ○子どもの措置に伴う保護者への説明や意見聴取                                                                                                                            | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目53】 適切な場面において、保護者に対する説明と意見聴取を行っているか                                                                                                          | a           |
| [No. 158] 保護者に対して必要な説明を適切に行っている                                                                                                                   | ○           |
| [No. 159] 保護者に対する説明は、わかりやすいよう工夫している                                                                                                               | ○           |
| [No. 160] 援助方針決定前に、保護者からの意向や意見を聴いている                                                                                                              | ○           |
| [No. 161] 援助過程において、保護者の意向や意見を聴いている                                                                                                                | ○           |
| 【コメント】<br>援助過程や援助方針が決定する前に、保護者の意向や意見を聴取している。援助方針会議に提出する資料には、保護者の意向を記入する欄があり必ず記入している。保護者から聴取した内容等は、児童記録票に記載している。なお、マニュアルに「措置に関するポイント」を整理する予定としている。 |             |

|                                                                                                                | 第三者<br>評価結果 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目54】 保護者の理解・同意を得られるよう努めているか                                                                                | a           |
| [No. 162] 必要な場面において、保護者の理解・同意を得るよう努めている                                                                        | ○           |
| [No. 163] 保護者の意向と児童相談所の方針が一致しない場合について、児童福祉審議会の意見聴取を行っている                                                       | ○           |
| 【コメント】<br>必要な場面において、子どもの最善の利益が図られるよう、可能な限り対面で説明し、保護者の理解・同意を得るよう努めている。保護者の意向と児童相談所の方針が一致しない場合等は、児童福祉審議会に諮問している。 |             |

| ○保護者に対する指導・支援                                                                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目55】 保護者への在宅指導は、計画に基づき適切に行われているか                                                                                                                                                          | b           |
| [No. 164] 保護者に対して必要な支援や指導を計画的に実施している                                                                                                                                                          | △           |
| [No. 165] 保護者が指導や勧告に従わない場合に適切な措置を講じている                                                                                                                                                        | ○           |
| 【コメント】<br>保護者に必要な支援をするため児童福祉司指導としたケースは、計画に基づく指導をしている。また、定期的に家庭訪問をし実行状況の評価をしている。継続指導のケースは、計画的な在宅指導はしていないが、指導を変更・終了する場合は、援助方針会議で判断し決定している。また、子どもの心身の安全や適切な養育環境を確保する必要がある際には、一時保護等で子どもの福祉を守っている。 |             |

|                                                                                                      | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目56】 親子分離中の保護者に対し、親子再構築に向けた適切な指導・支援を行っているか                                                       | b           |
| [No. 166] 親子の再構築に向けた支援計画を作成している                                                                      | △           |
| [No. 167] 親子の再構築に向けた適切な支援を行っている                                                                      | △           |
| 【コメント】<br>親子の再構築に向けては、ペアレントトレーニングやCSP等のプログラムを実施している。なお、今後は段階的にプラン内容を表示する「親子再統合プログラム」等の支援計画の作成に期待したい。 |             |

## 評価項目（9項目）Ⅶ 市区町村や関係機関との連携

### ○市区町村や関係機関との役割分担・連携体制の構築

|                                                                                                                                                                    | 第三者<br>評価結果 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目57】 関係機関との役割分担や連携方法等が明確になっているか                                                                                                                                | b           |
| [No. 168] 市区町村との役割分担や連携方法等が明確になっており、職員間で共有できている                                                                                                                    | △           |
| [No. 169] 警察や医療機関、その他関係機関との役割分担や連携方法等が明確になっており、職員間で共有できている                                                                                                         | ○           |
| 【コメント】<br>関係機関との連携は、警察は現職警察官が当所に派遣され、子どもの安全確認や有事等の際の対応に当たっている。拠点病院には児童虐待防止医療ネットワークにより、児童虐待専門コーディネーターが配置され連絡体制を強化している。児童相談所の相談件数が増加傾向の中、区との役割分担が明確でないため検討課題と認識している。 |             |

|                                                                                                                                 | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目58】 児童相談所と市区町村との連携強化を図るための取り組みをしているか                                                                                       | c           |
| [No. 170] 役割分担や連携方法等について協議を行っている                                                                                                | △           |
| [No. 171] 相互理解を深めるための、職員同士の交流機会などをつくっている                                                                                        | ×           |
| 【コメント】                                                                                                                          |             |
| 児童相談所職員と区の職員は、市職員であり連携は図りやすいが、ケース協議以外で交流する場はほとんどないのが現状となっている。児童相談所の援助方針会議、区の援助方針会議等に相互に参加することや人事交流を図る等で、相互理解に努める連携強化の取組みに期待したい。 |             |

| ○市区町村における子ども家庭相談・調査・指導への協力・支援                                             | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目59】 市区町村からの相談等について、迅速かつ適切に対応しているか                                    | a           |
| [No. 172] 市区町村からの事案送致の相談について、迅速かつ適切に対応している                                | ○           |
| [No. 173] 市区町村からの日常的な相談や依頼に対して、迅速かつ適切に対応している                              | ○           |
| 【コメント】                                                                    |             |
| 区からの事案送致の相談・依頼については、区ごとに担当制とし迅速かつ適切に対応している。また、日常的な相談や援助依頼等に対しても適切に対応している。 |             |

|                                                                                          | 第三者<br>評価結果 |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目60】 市区町村が行う相談対応・調査・指導に対し、必要な支援等を行っているか                                              | a           |
| [No. 174] 専門的な知識及び技術に関する支援を適切に行っている                                                      | ○           |
| [No. 175] 児童相談所としての役割・機能を適切に実施している                                                       | ○           |
| [No. 176] 市区町村における児童虐待に関する相談・対応機能の強化のための事業を実施している                                        | △           |
| [No. 177] 子ども家庭総合支援拠点がある場合には、適切な連携を行っている                                                 | ○           |
| 【コメント】                                                                                   |             |
| 区から相談を受けた場合は、助言を行うとともに、一時保護を要する等対応が困難なケースは、当所に対応することもある。区には当所で行う法律研修会の参加や弁護士相談の利用を促している。 |             |

| ○市区町村における子ども家庭相談・調査・指導の質の確保・向上のための支援                    | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目61】 要対協の運営において、児童相談所として求められる役割・機能を果たしているか          | b           |
| [No. 178] 要対協の実務者会議に児童相談所が参加している                        | ○           |
| [No. 179] 要対協が期待する役割を果たせるよう、必要な助言・指導等を行っている             | ○           |
| [No. 180] 要対協が調整機関としての機能を発揮するために、必要な助言・指導等を行っている        | △           |
| 【コメント】                                                  |             |
| 要保護児童対策地域協議会実務者会議には、地区担当SVやCW及び担当課長が出席し、専門的見地から助言をしている。 |             |

|                                                                                         | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目62】 市区町村の子ども家庭相談等を行う職員の資質向上に関する取り組みを実施しているか                                        | b           |
| [No. 181]適切な内容・頻度で研修を実施している                                                             | △           |
| [No. 182]研修以外の資質向上の取り組みを行っている                                                           | ×           |
| 【コメント】                                                                                  |             |
| 区の職員とは、日々の連携の中で必要なアドバイスをしている。区の職員への研修は、市の所管部署で行っているが、児童相談所としても区の職員の資質向上に向けた研修の実施に期待したい。 |             |

| ○都道府県児童福祉審議会との連携                                                                                  | 第三者<br>評価結果 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目63】 児童福祉審議会からの意見聴取を必要とするケースについて、意見を聴いているか                                                    | a           |
| [No. 183]必要なケースについて児童福祉審議会からの意見を聴取している                                                            | ○           |
| [No. 184]児童福祉審議会への情報提供を適切に行っている                                                                   | ○           |
| [No. 185]子どもや保護者等に対し、児童福祉審議会に意見を聴取すること、また意見の内容について説明が適切に行われている                                    | △           |
| 【コメント】                                                                                            |             |
| 保護者から施設入所の同意がもらえないケース等は、児童福祉審議会に諮問し、家庭裁判所へ申し立てをしている。子どもや保護者等に対しての説明は、CWにより差があるため、標準化できる取組みに期待したい。 |             |

|                                                                                           | 第三者<br>評価結果 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目64】 児童福祉審議会に対して必要な報告を行っているか                                                          | a           |
| [No. 186]児童福祉審議会に対して必要な報告が行われている                                                          | ○           |
| 【コメント】                                                                                    |             |
| 児童福祉審議会には、保護者からの同意のない2か月を超える一時保護等の必要なケースは報告している。あらかじめ児童福祉審議会の意見を聴く時間がない場合は、事後に速やかに報告している。 |             |

| ○家庭、地域に対する援助に関する事項                                                                                                                                                                                                    | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 【評価項目65】 家庭や地域に対する援助活動や児童相談所が実施すべき事業等が適切に行われているか                                                                                                                                                                      | a           |
| [No. 187]家庭や地域に対する援助において、市区町村との連携のもと総合的な企画とその実施に積極的に取り組んでいる                                                                                                                                                           | ○           |
| [No. 188]ひきこもり等の状態にある子ども及びその家庭に対し、総合的な援助を行っている                                                                                                                                                                        | ○           |
| [No. 189]巡回相談が適切に行われている                                                                                                                                                                                               | △           |
| [No. 190]療育手帳にかかわる判定事務等を適切に実施している                                                                                                                                                                                     | ○           |
| [No. 191]都道府県及び市区町村の障害児支援に関し、児童相談所として求められる支援等を適切に行っている                                                                                                                                                                | ○           |
| 【コメント】                                                                                                                                                                                                                |             |
| ひきこもり等の相談で長期化して18歳を超えたケース等は、「すてっぷ」（北九州市ひきこもり地域支援センター）へ情報提供し連携して取り組んでいる。巡回相談は管轄区域が広域でないため実施していないが、来所が困難と訴える家庭には、近隣の学校や市民センター等に対応している。障害児支援は、障害福祉関係機関と適切に連携し対応している。療育手帳に関わる判定事務等は、速やかに日程調整をして判定日を決め、判定会議を実施して手帳交付をしている。 |             |